

おらみネット

●発行日 / 2011年6月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

子どもは
小さい頃から
早めの対応が大事

子育て

特定非営利活動法人
発達障がいサポートネット
でこぼこフレンズ

②

やまんばの会

NPOのIT活用術

公益財団法人平和堂財団

⑤

世間よし〜企業の社会貢献〜

未来ファンドおらみのしくみ

「おたがいさま」と
支えあえる社会へ

特集★OHMI視点

①

元気印 NPO ③

高齢者の方々の
いきいきとした
態度に納得

シニアライフ支援

回想法ボランティア
いきいき

⑥

元気印 NPO ④

孤立化した人の
社会参加を支援

生きがいづくり

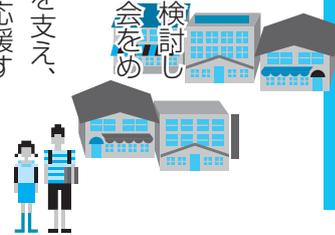
特定非営利活動法人
SOL

④

「おたがいさま」と支えあえる社会へ

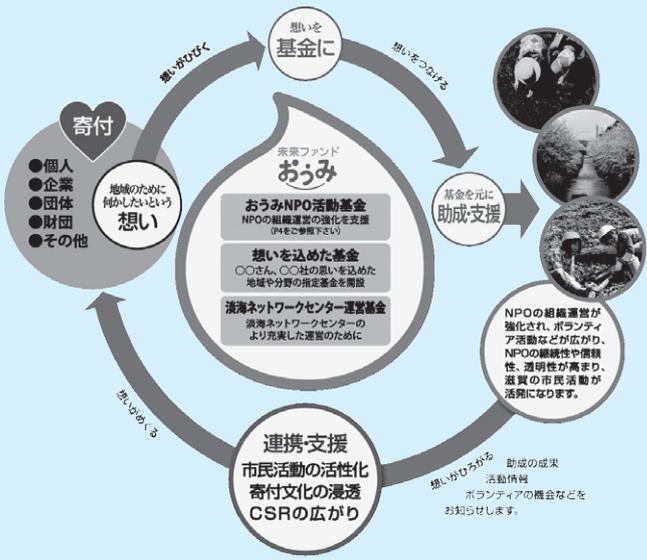
二〇二一年四月の公益財団法人への移行を前に、淡海ネットワークセンターのめざす滋賀の姿を検討しました。人間関係が希薄になってきたと言われる時代だからこそ、「おたがいさま」と支えあえる社会をめざしたいと考えました。

滋賀県で登録するNPO法人は五百団体を越え、市民活動団体やボランティア活動は地域社会を支え、地域の課題に対応する重要な役割を担うようになりました。活動する団体を市民が「寄付」によって応援する、「おたがいさま」と支えあえる社会のための一つのしくみ「未来ファンドおうみ」についてご紹介します。



「おたがいさま」の想いを寄付でつなぎたい

「未来ファンドおうみ」は、身近なところで活動する市民活動団体を応援したい。そんな想いを寄付として受け、市民活動への助成金とする仕組みとして二〇二一年四月にスタートしました。



助成を受けた団体の活動は、寄付された方にお知らせします。またインターネットなどを使って広く情報発信もしていきます。

子育て中のママが交流できるサロンの運営、高齢の方と地域の子ども達がふれあえるまちづくり、里山ときれいな水を守る活動、外国人も安心して暮らせる地域づくり、障がい者の暮らしを支える活動など、市民の活動は生活のさまざまな面を支えています。直接活動に参加できなくても、地域のためにがんばっている活動を応援したいと思われたら、「寄付」という方法があります。

想いをつなぐ

「未来ファンドおうみ」のしくみ

「未来ファンドおうみ」の中には、

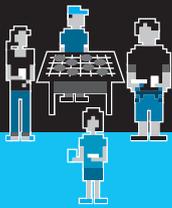
- 1 おうみNPO活動基金
 - 2 想いを込めた基金
 - 3 淡海ネットワークセンター運営基金
- の3種類の基金があります。

未来ファンドおうみ

Q & A



- Q ●寄付はいくらからできますか？
- A ●寄付額はいくらからでも受け付けます。三十万円以上の寄付から想いを込めた基金を創ることが出来ます。特に指定がない場合の寄付は「おうみNPO活動基金」への寄付となります。
- Q ●寄付は全額助成金になるのですか？
- A ●寄付額の十〜二十%相当額を基金の運営に必要な経費として、淡海ネットワークセンター運営基金に充てます。
- Q ●公益財団法人への寄付は税制優遇があると聞きましたが？
- A ●個人の方は所得税や相続税の、法人の方は法人税の、税制上の優遇措置を受けていただけます。例えば所得税に対する税制優遇では、個人の方が寄付をされる場合に確定申告の際、年間所得の四十%を上限として寄付金額から二千元を差し引いた金額を課税所得から差し引くことが出来ます。確定申告まで寄付領収書はお手元で保管してください。また、相続税、法人税につきましてはお問い合わせください。
- Q ●助成する団体はどうやって決めるのですか？
- A ●毎年十二月から一月下旬まで助成募集を行います。未来ファンドおうみ運営



代表 ● 吉川 友子
設立 ● 2006年(2010年法人化)
会員数 ● 17人 連絡先 ● 米原市上野672番地
TEL : 080-6132-8439
e-mail : dekokobokofriends2006npo@yahoo.co.jp
ブログ : http://dekokobokofriends2006.blog112.fc2.com/

みんな個性を持っている “でこぼこ”な仲間が 住みよい世の中に

でこぼこフレンズは、米原市のこども療育センターに通っていた子どもと保護者を中心に発足しました。発達障がいに関する講演会、上映会、勉強会、発達障がい者手帳制定を求める署名活動など様々なことに取り組んでいます。キャラバン隊として、寸劇を行ったり、発達障がいの疑似体験してもらったりし



▲発達障がい疑似体験会(2010年11月)にて寸劇を会員が演じています。

ています。今年夏には初めてサマースクールを企画中です。特別支援学校と特別支援学級の児童・生徒だけでなく、普通学級在籍の障がい児も対象に、よさこいダンス、バーベキュー、右脳と左脳をバランスよく使うブレインジムなどを行う予定です。また、今年7月には発達障がい児・者の「性」を学ぶ講演会を予定しています。

「発達障がいあまり周知されていないことやPR不足も



▲「でこぼこフレンズ」のメンバーの皆さん。左から吉川さん、岡田さん、藤井さん、南浮さん。

あり、講演会では思ったように参加者が集まらないこともありましたが、参加費を高くすると参加しづらくなるので、今後は資金とPRが課題です。発達障がい児・者の学校や働く場はまだまだ少ない。そして、発達障がいがない人にも向き・不向きがある。これから、発達障がいを持っていてもその人にあった道に進めるよう選択肢をひろげていきたい。一人で通える距離に学校・働く場があってほしい。また、未就学児を対象にした余暇活動等も出来るような環境を提供していきたい。子どもは、小さい頃から早めの対応が大事」とメンバーは話してくれました。

(おうみネットサポーター 山名朋希)

1 おうみNPO活動基金

市民活動団体が継続的に活動するためには、しっかりとした組織による運営が必要で、その組織基盤の強化を目的に助成金を出します。この基金は、二〇〇二年に滋賀県の寄付で設立され、企業や個人の方からの寄付を受け、これまで延べ九十五団体、約一億円を助成してきました。

2 想いを込めた基金

寄付する方が想いを込めて基金をつくり、助成することが出来るしくみです。会社名を

基金につけて「お父さんのボランティア活動を支援する基金」を創っていただくことも出来ます。個人のお名前をつけた基金でお住まいの地域の市民活動を応援していただくことも出来ます。また、社会的に必要とされる市民活動へ助成をするためにテーマを決めて寄付を集める基金も創れます。

3 淡海ネットワークセンター運営基金

未来ファンドおうみの運営や市民活動団体の支援を行う、淡海ネットワークセンターの運営を応援していただく基金です。

Q ● 寄付したお金がどう使われているか知ることができますか？

A ● 助成先については、事業内容や団体についてインターネットで公表します。また想いを込めた基金へ寄付された方には、助成団体のイベントやボランティア活動などもお知らせし、活動に参加していただきたいと思っています。一年間の助成終了後は公開で成果発表会を行います。ぜひご参加ください。

委員による書類審査を行い、二次審査として公開プレゼンテーションを行うて審査し、決定します。公開プレゼンテーションは一般に公開されています。

寄付をお考えの方へ

■ 未来ファンドおうみへの寄付について

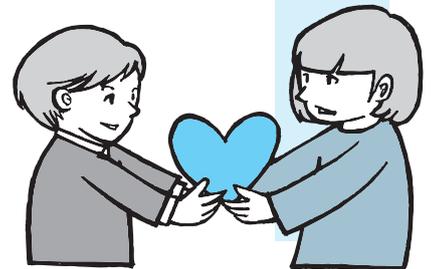
未来ファンドおうみへ寄付されると、寄付がどのような事業に使われるのか、またその事業の結果についてお知らせします。未来

ファンドおうみでは運営面での支援も重視していますので、助成先団体には事業の進捗や運営についてヒアリングを行い、中間相談会では専門家によるアドバイスなども行います。助成期間終了後には、成果発表会を開催して一般の方にも広く助成事業について知っ

ていただくことができます。

助成先団体のイベントやボランティア活動情報などをお知らせし、寄付された方と助成を受けた団体とが出会い、おたがいの顔が見える支え合いの社会をめざしています。

未来ファンドおうみへの寄付をお考えの場合は、まず淡海ネットワークセンターへご連絡ください。



■ 市民活動団体への寄付について

滋賀県内にも、さまざまな活動をしている市民活動団体があります。寄付で応援したい団体や関心のある団体があれば、ホームページやその団体が発行する通信などで活動内容を確認してみてください。イベントなどがある場合は参加してみると団体の雰囲気などがよく分かります。また、年間の事業報告や経費について会員などへ報告しているかどうか

も確認してください。寄付がどのように使われているかを知ることでもっと応援したいという気持ちにつながります。自分で納得のいく活動をされているところを探すことも寄付をする楽しみの一つです。

寄付先団体をお探しの場合、淡海ネットワークセンターにお問い合わせください。

お金で社会貢献を

大きく育てていきたいものです。

地域のために市民活動をしようとする若者、金融資産を活用し社会の役に立ちたいと願う高齢者が確実に増えています。体や知識で社会に貢献する「ボランティア」とお金で社会に貢献する「寄付」の両輪が、地域生活を豊かなものにし、地域課題の解決に大きな力となります。自らのライフプランを考え、資金の余裕が出てきたら、資産を子孫に残すだけでなく、社会や他人に対する感謝の気持ちを目に見えるカタチにして、お金で社会貢献をし、実りある人生にしようではありませんか。

ファイナンシャルプランナー
(CFP 認定者 1 級 FP 技能士)
社会保険労務士

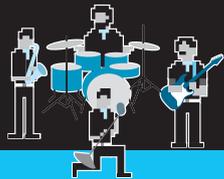
江畑 行雄さん



C olumn

私たちが、生涯にわたり豊かな人生を送るためには、早い段階からライフプランを作成し資金計画を立てておく必要があります。特にマネー面では、収入に見合った賢い支出をし、老後に備えて少しでも貯蓄を増やしていかなければなりません。お金の支出は消費するか投資するかのどちらかですが、投資は自分への投資と社会へ投資(寄付)に分けることができます。

この寄付を身近に感じることができるようになったのが、昨年末に突如現れたタイガーマスク現象、そして3月の東日本大震災後のチャリティ運動や義援金活動です。日本人は、社会や他人に対する思いやりの心を持ちながら表現するのが不得意で、欧米の先進国に比べ、寄付文化が希薄だと言われてきました。しかし今、助け合いの心がうねりとなって表れてきたことを大切に、大



特定非営利活動法人

SOL

代表●河島 夏大 設立●2007年
 会員数●12名
 連絡先●事務所：大津市浜大津4丁目1-1
 明日都浜大津ビル1階
 大津市市民活動センター スモールオフィス内
 TEL・FAX：077-521-3455
 e-mail：info@npo-sol.jp URL：http://www.npo-sol.jp/

寄付する気持ちを届けよう

3月11日の東日本大震災から、日本中、世界中から被災地を応援したいとたくさんの方の寄付と物資が集まっています。全ての人が現地で直接支援活動することはできません。しかし、何かできることをしたい。応援している気持ちを伝えたい。そんな思いで寄付をされたのではないのでしょうか。

市民活動への寄付も「応援している気持ち」を届けるものです。「寄付」は、私達の社会や地域にある課題に対して活動する団体のことを知り、直接的な活動での支援は出来なくても、寄付というカタチで参加する市民活動です。

淡海ネットワークセンターは、一九九七年の設立以来、地域の個性や魅力を高めたり、暮らしをよりよくするための活動、地域や社会の課題解決に自主的に取り組むNPO(非営利組織)・市民活動を支援してきました。二〇一一年四月、公益事業を行うことを主たる目的とする法人として滋賀県から認定を受け公益財団法人となりました。市民活動への理解と支援を広める努力をさらにしていきたいと思えます。

豊かなライフプランニングから人生の旅立ちまで、総合的なライフソリューションをサポートします！

「SOL」とは、ラテン語で「太陽」を意味するそうです。「太陽」のように暖かく大きな愛情で人々を支えていたら…「SOL」の若きリーダー・河島代表のそんな熱い想いが、「SOL」の理念である「Solution for Organic Link」、すなわち、「ひと」や「まち」の本来の絆を結びつけるというミッション



▲インタビューに応える河島代表。物静かな口調のなかにも、熱い想いが伝わってきます！

に繋がり、2007年4月、「NPO法人SOL」が誕生しました。その息吹は、彼の青春時代にまで遡ります。HPに彼自身が吐露しているとおり、引きこもりの生活の中、孤独感と絶望の淵から這い上がってきたまさに闇からの生還こそが、彼のこのころの中に「SOL」を育み、やがて「人生のサポーター」へと成長させていったのでしょうか。

「SOL」は、30歳代早々の若い代表のもと、12人のシニアのスタッフによって支えられています。そして、取り組んでいる活動は、「きずな倶楽部」(見守り活動・日常生活支援・仲間作り支援、最近では、きずなカフェを開催しライブも)と「きずな葬」(生花葬・生演奏葬・琵琶湖葬など)を二本柱に、



▲「きずな倶楽部」のメインイベント。きずなカフェでハワイアンライブは如何でしょう！

ここ豊かなライフプランニングから人生の旅立ちまで、すなわち総合的なライフソリューション(人生の総決算)へのサポートを目指しています。果たして、その根底には…社会問題化している昨今の孤独死や幽霊家族に象徴される「つながり」の希薄化をなんとかしたいという「きずな」再生への想い、いわゆる「社会的包摂」の理念に基づき、孤立化した人の社会参加を支援する「一人ひとりを包摂する社会」の構築への魁を感じ取りました。

「ひと」や「まち」の「きずな」を取り戻すために、「SOL」(太陽)は輝き続けることでしょう。これからも、ずっと…。

(おうみネットサポーター 荒木 威)

★知っ得インフォメーション★

◆日本の寄付について知ってみたい方へおすすめの本
寄付白書2010

日本ファンドレイジング協会編／日本経済団連出版
 初めて、日本の寄付についてまとめた本。日本の個人の年間寄付総額は約5千億円。日本人は寄付が少ないって本当？私たちは、どこに、いくら寄付しているのか？を分かりやすく見せてくれる本です。

「社会を変える」お金の使い方—
投票としての寄付 投資としての寄付
駒崎弘樹著／英治出版

あなたにも、きっとできることがある。画期的な「病児保育サービス」で社会起業家として脚光をあびた著者が直面した日本社会に潜む「貧困」。寄付のイメージを覆し、私達にも社会を変えることができることを実感できる本です。
 ※上記2冊とも、当センター貸し出し図書です。

◆インターネットを使って寄付先を探したい方へ
日本財団公益コミュニティサイトCANPAN

URL：https://canpan.info/
 公益活動に関心を持つすべての人・団体のための公益コミュニティサイトです。地域や分野などで団体情報を検索でき、団体の情報開示について分かりやすく表示されています。

協働ネットしが

URL：http://www.pref.shiga.jp/c/katsudo/kyodonet/
 滋賀県が認証しているNPO法人が滋賀県に提出する事業報告や決算などの情報が掲載されています。団体の活動状況などを知ることが出来ます。

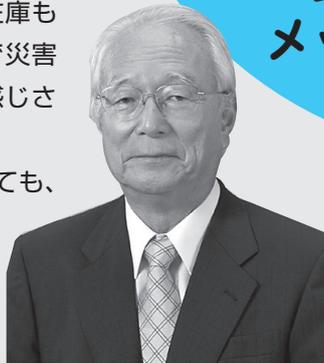
市民活動への期待

「地産地消」を市民の手で

これは経済至上主義がもたらした結果であろうが、現在ではわれわれの生活を初め、地域社会や国家に至るまで、自立した存在であることが不可能になっている。嘗ての農的生活では、自らが土地に植物を育てそれを食べ、ニワトリやウサギなどもつぶして食べた。エネルギーは柴や樹木の廃材を使った。自給自足で自立したライフスタイルだった。若い人たちには大昔の話のように聞こえるかもしれないが、私の少年時代はそうであった。

それがこの半世紀の間に工業社会の発達によって見事に一変した。仕事は企業のラインの一部を担当するだけで、生産現場から、店頭での販売までコンピューターが働き、人間の活躍の場を奪っている。おまけに、その現場も部品の調達は海外を含めて遠隔地だったり、末端の店舗の在庫も配送センターにしかなかったりで、今回の様に広域で災害が発生すると社会全体が機能停止してしまう恐怖を感じさせる。

これでいいのだろうか。個人の自給自足は無理としても、地域における地産地消はもっと推進する必要がある。電力会社一社の原因で数百万戸が一瞬に停電する、私たちはこの愚かさ気付くべきである。



淡海ネットワークセンター
理事 森 建司
(新江州株式会社 会長)

人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

公益財団法人平和堂財団 TEL : 0749-23-4575 FAX : 0749-27-3008 URL : <http://heiwado-z.jp>

次世代を担う人づくりに取り組む

平和堂財団は、株式会社平和堂の創業者、故夏原平次郎さんが、地域へのご恩返しをしようと私財を寄付し設立された。主な活動は、将来を担う若い人たちへの助成や支援活動が行われている。今回は、株式会社平和堂の元社員で常務理事の原田さん、事務局の山口さんにお話を伺った。

財団の柱である「教育」「文化」「体育」の3つの分野で、若者への助成などを行っており、毎年、約100件以上の応募がある。常務理事の原田さんは、「助成した若者から感謝のお手紙をいただいたときは、大変うれしい気持ちになりました。ここの助成で多くの若者が巣立ってくれれば」と微笑む。

創立20周年記念事業である「いきいきすくすく淡海っ子活動」は今年3回目を迎える。この事業では、次世代を担う子どもたちがたくましく心豊かに成長する活動を実践している団体を公募・審査し助成

する。毎年50団体ほどの応募があり盛況だ。事務局の山口さんは、「選考委員会で厳選な審査を行い、落選を伝え

ることもあるが、昨年の助成団体から応募があると、子供たちを育む活動団体の成長が見えてうれしい。継続事業として毎年募集しているので、積極的に応募してもらいたい」と、エールを送った。

今年度から公益財団法人に移行し、これまでの「教育」・「文化」・「体育」の3つの分野に新たな「環境」という分野も加わった。これから環境教育を行う活動にも積極的に助成をしていく予定だ。平和堂財団の助成で巣立った若者が活躍する地域社会に注目していきたいと思う。

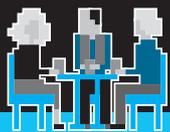
(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹憲吾)



▲平和堂財団の常務理事 原田さん(左)と事務局の山口さん(右)



▲「いきいきすくすく淡海っ子活動」のパンフレット



代表 ● 下田 義春
設立 ● 2009年
会員 ● 14人
連絡先 ● 守山市守山2丁目16-45 中出弘一郎
TEL : 077-583-2975
FAX : 077-583-4654

お年寄りに 笑いと元気がでる 「回想法」の出前します

4月9日午後1時、守山市の矢島
武道天神社での「矢島すこやかサロ
ン」の集いに参加させていただきました。
オープニングは指の指圧で笑
いを取りながら、心身をときほぐ
した後、5,6人のグループに分かれ、
回想法の実践が始まりました。わ



▲「回想法ボランティアいきいき」
のメンバーの皆さん。

たしは中出氏と男性3人での回想法グループワークに入れても
らい、取材しながら感動的な生の「回想法」の実践現場を見せ
てもらいました。「昔の小さいころでどんなことを覚えていま
すか？」と端の方に話しかけました。「忘れてしまうたー」し
ばらく間をおいて隣の方に「○○さんはどうですかね」。する
とその隣の方が「近くの水に入って素手で魚をつかんだ」「小さ
い魚だけでなく、ナマズもつかまえ、お店に持っていったら
買ってくれた」といった調子でしゃべり出すと、次々に話が飛
び出し、にぎやかになりました。

しばらくすると、今度は小道具が出てくる。男性に人気の
「教育勅語」、それから「湯たんぼ」「弁当箱」「むかしの道具の写



▲「矢島すこやかサロン」で
の「回想法」グループワ
ークの一コマ

真(たとえば、ごとく、七輪)など高齢者が
主体的に話が出るように回想をいきいき
と巡らせ言葉にしてもらおう。—「回想法」
とは、1960年代アメリカの精神科医が提唱
した心理療法で、高齢者が昔を思いだして
言葉にする—その結果脳が活性化して認知
症予防に効果がある。とされていることが、

現場を体験させてもらえて、高齢者の方々の表情、いきいきと
話される態度で納得できました。

丁寧に應對していただいた中出弘一郎氏の名刺には守山市
民交流センター所長、裏にはNPO法人経営支援リエゾンオ
フィス常務理事と書かれており、また、別の資料には「中出チャ
レンジライフ研究所」なる場も、もっておられるとのこと、守
山市とこのボランティア活動の密接な関係を実感させていた
だきました。認知症が社会問題として、急速に広がる昨今、
今後の皆様の活動の更なる発展を祈念するとともに、取材に
ご協力いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

(おうみネットサポーター 岡崎一郎)

NPOのIT活用術!

NPO法人やまんばの会

<http://yamanbanokai.p1.bindsite.jp/>

手描きのイラストマップで、
活動フィールドを楽しく紹介



「滋賀Web大賞2010」地域活動団体部門で優秀賞を獲得したホームペ
ージ。会の活動について「里山の現状」「私たちにできること」という二つの
観点でわかりやすく説明しているほか、現在取り組んでいる4つのプロ
ジェクトについて1～3ページを使って具体的に紹介しています。何よ
り見て楽しいのは、活動フィールドがアルバムと手描きのイラストマ
ップで紹介されていること。このフィールドに行ってみたい!自分も関わり
たい!と思える工夫が満載です。事務局の廣瀬さんによると、重視し
たのはページ全体の統一感や閲覧のスムーズさ、そして「連絡先がど
のページにも明記されていること」。この情報発信により、興味を持った方
からの連絡や参加がある他、活動内容をみて企業の方から寄付を受ける
という効果もあったそうです。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

私にでも出来る活動に 取り組んで

7期生 林 憲一郎

グループ：逢味おむすび隊

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

未来塾では、身体が不自由な私のできる活動は限
られ、グループの中で活動に参加する機会が少なく
迷ったこともありましたが、卒業後、身体に
「障がい」を抱える者として出来ることは何かあるは
ずと考えていた頃、講演依頼がくるようになりました。
自分の障がいとどのように向き合い克服してきたのか、「障がい者」が
地域社会で生きていくうえでの問題点や苦勞、考えなどを小学校、中学校、
高校、行政機関に向いて講演しています。講演では、家庭や社会生活
していく中で障がいのある人もない人も同じ社会で生きていくうえで最
も大切であるノーマライゼーション理念に基づいたまちづくりについて
の思いや意見を話しています。自分さえよければという世の中ですから、
身体に障がいのある人たちが住みなれた地域で安心して暮らしていける
ために、一人の人間として主体的に生きる気持ちを持ち、人の心の痛み
や苦しみの分かる人に育ってほしいとの願いを込めて当事者でしか語れ
ないことであると思っています。現在米原市では、「絆を大切に作る心」を
重要スローガンとして取り組んでおりますので、これなら私一人でも出来
ると思い、微力ではありますがまちづくり活動の一環として取り組んで
います。決して人の先頭に立ち注目をされるようなことではありません
が、これからも依頼があれば喜んで出向きたいと思っています。



相談 市民活動、NPO 運営のご相談いつでもどうぞ！

Q. NPO法人の解散に関する手続きについて教えてください。

NPO法人を設立して、数年来活動を行ってきましたが、残念ながら後継者が見つからず、この度NPO法人を解散することにしました。こういった手続きをすればいいですか？どこに届け出をすればいいですか？費用はどれくらいかかりますか？

A.

〈手続きについて〉

- ①総会で解散を決議します。(定款で定めのない限り、社員の3/4以上の賛成が必要)
- ②清算人を決定します。(理事が清算人となる場合が多いです)

- ③解散の公告をします。清算人就任の日から2ヶ月以内に、最低3回、官報に掲載しなければなりません。
- ④清算等の手続き。

〈届け出について〉

- ①所轄官庁(各都道府県等)への届け出・解散届出書他(滋賀県の場合、HPから所定の書式をダウンロードできます)
- ②法務局 登記が必要です。(解散決定後・清算完了後各2週間以内)
- ③税務署 収益事業をされていた場合、法人の廃止届出が必要で。

〈費用について〉

- ①官報への公告は、約8万円かかります。

未来ファンドおうみ「おうみNPO活動寄付基金」へご寄付ありがとうございます。

5月10日、オムロン株式会社草津事業所様から188,301円のご寄付をいただきました。エコ活動とボランティア活動を併せた「エコボランティア」に1年間社員一人ひとりが取り組まれ、ポイント化したその成果にあわせて会社も社会貢献活動へ寄付する取り組みをされています。



第1回協働サロン2011 イベント 住み良さを「アート」でつなくまづくり

個性的なまちづくりに「アート」は有効です。また、「アート」を通して地域内外の多様なネットワークとの連携で新たな可能性も広がります。一方、「アートによるまちづくり」を知って欲しいと思いついてはいるが、なかなか存在が知られてないところや、広がりについて悩んでいるところもあります。今回「アート」のまちづくりについて関わっている団体や新たなまちづくりを考えている団体が集まり、全国の事例や進め方などについて学び、参加者の新たなネットワークが広がることを期待し、開催します。

- 日時：6月19日(日)
 - 場所：草津まちづくりセンター
 - 資料代：500円
- 詳細はチラシをご覧ください。

イベント おうみ未来塾活動報告会

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、滋賀県のような地域でまちづくりなど市民による活動を学び、2年目にはグループ活動としてフィールドに入り、地域の課題に取り組みます。今回は、2年目を迎える11期生のグループ活動報告会を行います。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来て下さい。

- 日時：6月12日(日) 13:00～15:00
- 場所：ピアザ淡海 305会議室

イベント NPO 会計講座開催(予定)のご案内

新NPO会計基準に基づいた、会計講座を行います。

- 日時：8月下旬～9月上旬(予定)
- 内容：実技を中心にした内容を予定しています。詳しくは、ホームページに掲載いたしますので、お楽しみに！

発達障がいということは少し知っていましたが、今回詳しく聞くことができてよかったです。子を思う親のパワー・行動力に頭が下がる思いです。「個性を活かす」これは人間にとってとても大事なことです。発達障がいがあるないに関わらず、人と接する時に大事にしていきたいと思いました。(おうみネットサポーター 山名朋希)

「SOL」は私たちに、何を問いかけているのでしょうか？「きずな倶楽部」と「きずな葬」。一見、対極にある二つは、残された人生の生き方を教えるようとしているのでは…。そんな重たい想いにさらされた取材でした。若い代表の深い人間性に脱帽!!! (おうみネットサポーター 荒木 威)

アメリカ生まれの「回想法」の実践現場を短いスケジュールの中で、幸運にも巡り合えました。そしてキーマン「中出弘一郎」氏のグループに密着取材出来たことも、取材者冥利に尽きる出来事でありました。(おうみネットサポーター 岡崎一郎)



淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

●〒520-0801
大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

●TEL 077-524-8440

●FAX 077-524-8442

●http://www.ohmi-net.com

●E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間／9:00～17:00
休館日／月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県情報室など

変化し続ける地球環境 常に一歩先を見つめています。

Analysis
はかる
測定・分析関連事業

Maintenance
みる
施設管理関連事業
製品販売関連事業

Think of Ecology

Conservation
守る
環境保全関連事業
その他関連事業

測定技術で人々の健やかな暮らしを創造します

株式会社日吉

●本社 滋賀県近江八幡市北之庄町 908 TEL.0748-32-5111

●東京事務所 東京都港区赤坂 9-1-7 TEL.03-5772-6074

www.hiyoshi-es.co.jp

www.calux.jp

おたがいさまがつながり、活きる。



未来ファンド 個人の気持ち、企業のCSR
様々な“志”を地域に支える市民活動へ、しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約1,900カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!

